

逍遙と景観

近畿大学理工学部 社会環境工学科
岡田 昌彰

1. 風景とは

・視座



Augustin Berque 1942-

絵画や詩歌などによる
「教育」を通し、
単なる環境が
“風景”となる。

日本の風景・西欧の景観
／講談社 1990

2. テクノスケープの現在

～様々なプロジェクト

・山口県周南市



・青森県八戸市



・川崎・室蘭・四日市・北九州・周南・尼崎



・堺市 (土木学会+NHKカルチャーセンター)

3. 風景の創造と「散歩」

●散歩

- ・気晴らしや健康などのために、ぶらぶら歩くこと。あてもなく遊び歩くこと。そぞろ歩き。散策。
- ・明治時代当初は運動の一種。
- ・海水浴と同じく西洋から教わった風俗の一つ。
- ・次第に「逍遙」の意味を獲得。

●逍遙

- ・気ままにあちこちを遊びあるくこと。ぶらつくこと。遊樂すること。
- ・世間の俗事を離れて楽しむこと。

●カント・西田幾多郎・今和次郎・赤瀬川源平
VS 意図の希薄な散歩

4. 逍遙・散歩のもたらす風景の発見



タウシュベツ橋梁 (北海道上士幌町: 1939-87)



函館の夜景



Grotto Shaped Folly, Sheerness (Kent, UK)

5. 風景の発見：先人の知見

- ・中村良夫 (1995: 景観工学: 1938- / 東工大名誉教授)
脱農者 (農業景観 / 工業化社会)
脱工者 (工業景観 / 情報化社会)
- ・西田正憲 (2013: 景観論, 環境文化論, 自然観光論:
1951- / 奈良県立大学教授)
風景を発見するのは, 基本的に外部のまなざし
主体と客体の距離の問題

6. 風景の創造

- ・散歩 (逍遙) による偶然の出会い
- ・風景のセレンディピティ
(偶然からモノを見つけ出す能力)
- ・偶有性 (意外性) / 気づきと受容

【事例】



紫野柳児童公園ラジオ塔 (1935年 / 京都市北区)



夷川船溜り (1890年 / 京都市左京区)



JR鶴見線VS京浜工業地帯のテクノスケープ



金沢市末浄水場
(2010 国名勝)

上) 発見時 (2001)
下) 整備後 (2012)

7. 「散歩」と風景の創造 (出会い・発見)

- ・自由な目的
- ・アクション
- ・「気づき」 (シンクロシティ: 共時性)
- ・ある程度の心の余裕
- ・デフォルトネットワーク (脳の散歩)

「創造への道は、旅することに似ている」

【関連文献】

- 1) 岡田昌彰 (2009) おそと巡検—好奇心をいざなう知的アドベンチャー, OSOTO Vol. 6, (財) 大阪府公園協会
- 2) 岡田昌彰・岡島一郎 (2004) 金沢市末浄水場の空間構成とその利用に関する研究, 土木学会土木史研究論文集 Vol. 23
- 3) 岡田昌彰・藪内慎太郎 (2008) 昭和初期に竣工した京都児童公園の空間構造に関する研究, ランドスケープ研究 Vol. 71 No5
- 4) 岡田昌彰・文字拓哉 (2014) 夷川船溜りにおける水泳場としての空間再利用の変遷に関する研究, 日本造園学会ランドスケープ研究 Vol. 77 No5

岡田 昌彰 おかだ まさあき

E-mail: okd@civileng.kindai.ac.jp

研究室HOMEPAGE :

<http://www.geocities.jp/okdokdok/Keikan/>

最近の主な研究テーマ: ●土木遺産・産業遺産を対象としたヘリテージ・スタディ●テクノスケープ研究●景観評価論●土木史研究 など

